

第126回例会を下記のとおり開催しますので、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

## 近畿部会第126回例会

■と き 平成26年8月7日(木) 午後2時00分～4時30分

■ところ 大阪市立総合生涯学習センター 第8研修室  
大阪駅前第2ビル5階(北区梅田1-2-2-500)  
地下鉄御堂筋線梅田駅・四つ橋線西梅田駅・谷町線東梅田駅、阪急電鉄梅田駅、阪神電鉄梅田駅より徒歩5分。

■テーマ 「わたしの歴史」と「わたしたちの歴史」  
—サンフランシスコGLBT歴史博物館を事例として—

■報告者 藤吉圭二(高野山大学)

■内 容 ゲイ・タウンとして知られるアメリカのサンフランシスコにはGLBT歴史協会があり、GLBT歴史博物館はこの協会によって2011年に設立されました。これは「当事者による当事者の歴史の展示」の試みとして、人権回復運動という視点からも興味ぶかいものといえます。

ゲイだけでなく性的マイノリティーは、アメリカにおいてさまざまな理由によって差別を受けてきました。そうしたネガティブな面も含め、多くの現物資料をもとに「わたしたちの歴史」を再構成し、当事者だけでなく多くの人々に知ってもらおうと試みているのがGLBT歴史博物館です。

報告者は2011年9月にこの博物館を訪問し、その後もメールなどによって関係者に聴取り調査を進めています。当日は現地で撮影した写真と共に調査内容をご報告します。またサンフランシスコ以外に訪問した博物館等での写真も交え「わたしの歴史」と「わたしたちの歴史」の交差について考えてみたいと思います。

「わたしの歴史」と「わたしたちの歴史」を重ね合わせる作業には、プライバシーへの配慮や、敵対した過去を現在の視点からどう位置づけるかといった困難な課題を含みます。GLBT歴史博物館の実践を中心に、他の博物館の展示も参考にしながら、これらの点についても考えていければと思います。

※GLBT：ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダーの略称。LGBTとすることも多い。

今回の例会報告は、「史料保存ネットワークの活動と史料保存」というテーマで実施された。

はじめに、河野未央氏（尼崎市立地域研究史料館）が「歴史資料ネットワークの歩み—今後へ向けて—」と題し報告された。1995年の阪神・淡路大震災を契機に歴史研究者を中心に結成された、史料ネットの結成から現在に至るまでの活動と今後の課題について報告された。とくにご自身が関わった2009年の台風9号兵庫県西・北部豪雨における兵庫県佐用町の取り組みと、院生・オーバードクター中心の経済的にも不安定な人たちが支えている現状への不安などを訴えた。

次いで、町田哲氏（鳴門教育大学）が「『歴史資料保全ネットワーク徳島』の現状と課題」と題し報告された。2011年の東日本大震災や台風12号紀伊半島豪雨災害を契機に、県内の大学日本史教員・自治体の博物館および文化財担当者・市民らを中心に結成された「歴史資料保全ネットワーク・徳島」の活動について報告された。氏は自然災害だけでなく、徳島で進む過疎化（集落消滅もありうる）のなかで、歴史資料をいかに守るかという観点から、災害時に備えるだけでなく、日常的な結びつきの重要性を訴えた。

史料ネットが阪神・淡路大震災から出発し、その後多くのネットワークが立ち上げられることとなった。地震災害を契機とするものだけでなく、水害などへも広がっていった。さらに、災害を出発点とするのではなく、日常での結びつきを密にすること、災害に備える体制を築く動きも見られるようになってきている。河野氏は、佐用町が史料ネットにレスキューを依頼し、地元としてそれをサポートする体制を「受援力」として位置づけ、今後災害時における史料ネットと自治体との関係の一つのあり方を示された。町田氏は、徳島県立文書館を拠点に県内のネットワーク構築に奮闘されている様子を伝えられた。

お二人の報告のポイントとして挙げられるのは、いかに地元と連携していくかであろう。災害時に自治体と連携する史料ネットと、日常において大学・自治体・市民が連携し合う徳島史料ネットと、活動のスタンスに違いはある。ただ単にいずれが良いかということではなく、それぞれの地域性や特徴を活かした進め方として、さらなる活動の発展が期待される。

そのベースにはまず、歴史資料がどこにあるか、という課題を個々の自治体で悉皆調査しておくべきであろう。イザという時だけでなく、これから守るべき歴史資料を掘りおこすためにも。

（平成26年6月17日開催）

## ◎平成 26 年度第 22 回全史料協近畿部会総会

平成 26 年 6 月 17 日、徳島県立文書館において近畿部会総会が開催されました。

近畿の中心部からは遠方ながら、12 名の出席者を得まして、26 年度の役員体制、25 年度の事業報告。決算報告及び監査報告、26 年度の運営委員会体制、26 年度の事業計画、予算及び通信会員に関する会則の一部改正が議案として出され、承認されました。

別紙として総会議事録を同封いたします。ご意見・ご質問等ある場合は、事務局(徳島県立文書館 金原)までご一報ください(電話 088-668-3700)。

### お知らせ(再掲)

「マンスリーニュース」は今後WEBによる配信が主となります。

「マンスリーニュース」はこれまで、紙による印刷物のかたちで会員に送付させていただいてきました。しかし、より充実したタイムリーな情報の伝達、増税などによる送料等の高騰などを理由に、立ち上げましたブログへの掲載、もしくはメールでの配信を中心にしていきたいと考えています。WEB配信への移行にご理解とご協力をお願いいたします。

そのため、会員の皆様(機関会員・個人会員・通信会員)に必ず下記のアンケートにお答えいただき、下記の方法でご返答をよろしくをお願いいたします。

マンスリーニュースの配信方法について(○を付けてください)

- 1 ブログに掲載する画像(JPEGファイル)を会員各自で見る。
- 2 メールで受け取る。(下記を受け取り先のメールアドレスとする)
- 3 これまで通り紙で送って欲しい。(理由: \_\_\_\_\_)

氏 名 \_\_\_\_\_

住 所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

メールアドレス \_\_\_\_\_

◎FAX・メール・郵送にて下記までご回答ください。

FAX 088-668-7199

メール [kinbara-hiroki-1@mt.tokushima-ec.ed.jp](mailto:kinbara-hiroki-1@mt.tokushima-ec.ed.jp)

(ブログのメールフォームでも結構です。)

送り先 〒770-8070 徳島市八万町向寺山

徳島県立文書館内 全史料協近畿部会事務局

※現在、機関会員で5割、個人会員の方で7割、通信会員の方で8割の方から、まだご回答をいただけていません。大事なアンケートですので、是非ご協力をお願いいたします。